



望洋荘便り



第10号
平成16年
9月発行

与えられた「優しさ」

社会福祉法人 りんさく福祉会

理事長 須田 滉

私たちの五感（触覚・嗅覚・味覚・聴覚・視覚）、広い意味での身体感覚は、単に機能としての意味にとどまらず、学習やコミュニケーションの基盤になっていることは、今更、言を待たないところです。それだけに、私たちが本来持っている五感を見直すと共に磨き、維持する必要があります。この五感の形成と維持について若干考えてみたいと思います。

げんこつやまの たぬきさん

おっぱいので ねんねして

だっこして おんぶして またあした

私たちは人間は、学校に上がるまでの時期に基本的な感覚的刺激を自分の身体で受け止め、次第に「感覚の統合」が行われます。その上で初めて読み書きや算術などの「学習」が可能になります。人間にとつてのベーシックな部分をまず育てなければなりません。この童謡の中に、基本的な感覚の修得が感じられます。子供達はおんぶとか抱っこという体勢を通して、自分の身体の重力をしっかりと認識したり、相手の背中にどう体重を乗せれば落ちないかななどの術を身につけます。親の背中からずり落ちないように、おんぶの姿勢の中で、また、親の懐の中に抱っこされてみている姿勢などにより五感が徐々に研ぎ澄まされてゆくのは、子供は勿論、親の背中や懐に温かさや優しさを感じての上であることは言うまでもありません。大人の大切な役割として、子育てにおいて、いろいろな感覚を養うチャンスのある場を設定することが極めて重要だと思います。

逆に高齢化と共に、身体感覚が徐々に減弱、或は喪失していきます。高齢者の生活をイキイキとさせるにはこの五感の低下を抑えていくことが大切だと思われまます。痴呆疾患や知的障害者に最近では、感覚の刺激を与える治療方法が行われ始めています。光・音・振動や香り等を使って昔の自分、幸せに暮らしていた頃の記憶を呼び起こさせる治療です。ある意味で「五感」とは、「その人らしさ」を支える記憶を「しまつてある場所」だともいえると思います。その感覚を思い出すことによつて、一生懸命生きていた頃の自分を蘇らせ、心身を極めて安定させることができま

す。職員の新鮮な感覚でもつて入所者の鈍っている感覚を共感し、各人の特有の特徴を十分把握しつつ適確なケアを続けてゆきたいものです。ご家族の方々も若き頃の「おんぶして」「抱っこして」の感覚（五感）を思い出して、お年寄りに接してください。改めてかつて与えられた「優しさ」「温かさ」を感じ取ることが出来るでしょう。

参考文献 新世 第五八巻 第九号

望洋荘での生活を紹介します。



四倉海岸通り

女性ばかりのユニットです。穏やかな遊びが好きで、昔懐かしい歌とともに鼻歌がとび出します。

勿来海岸通り

勿来ユニットでは、今月カラオケ会を実施、石原裕次郎を熱唱する入居者様の姿もありました。

永崎海岸通り

永崎ユニットでは、毎月その月に誕生日を迎えた入居者様の誕生会を実施しております。

今は昔 第7話 入居者様の寄稿より

『思い出の中国山東省で師団作戦』

全滅の一步前だった軍作戦、戦死一步前で死なずに終わった事を後世に残す為に平成十六年八月二十八日夕食後七時『望洋荘』にて書く、加藤の実録です。
当時(昭和十七年八月)の師団長(中将)、中隊長(中尉)、班長(軍曹3名)名前は全部忘れたが、その時の事は今でも全部記憶している。本当にあの時全滅戦死すると思つた。

戦場に臨んだ日は憶えている。夜十時頃敵地の中に進んだ前後左右に、敵の手榴弾が飛んで来たが、夜は当たらないからと全員黙つて進んだ。私はその時はまだ上等兵だったので、上官の言う事を聞いて進み、手榴弾は前後に落ち、何時弾に当たるかと思ひながら進みました。

夜なので山の道で前の者に逸れない様に前進するのは大変だった。夜も明けて、東の空が少し明るく成つて来て前方がいくらも見えない様になった頃、部落に入り家が見える様になった。家の中に入り中を見たら今まで人がいた様で室内が暖かく、これは良い所だと戦友と一緒にそこで朝飯を食べる事にした。飯ごうの弁当で梅干位のおかずでした。そんな飯を食べて満足した。

また家から出て前に進み川原に出ました。すると私達の所は敵に丸見えでした。敵は前方五十米位の所におり、私達に一斉射撃で攻めて来ました。敵は百人位の兵隊で肩には小機関銃の弾をタスキ掛けた格好でした。

私の目の前・頭の上・左右に弾が飛び交い、何時当たるかと思ひ、生きた気がしなかつた。川原なので何も隠れる所は無く、自分はここで死ぬのかと思つた。隣を見たら弾が当り倒れた戦友の姿があり、見ただけで戦争の恐ろしさを実感し、また敵が憎らしかつたのはこの時だった。戦友はもう死んで声も出なかつた。この姿を見て私は身震ひした。この時、私は親の名を呼んだ。しかし、私には神様が一発の弾も当てないでくれたので、今も元気でおります。

この川原の戦闘では、私達は五十人位で敵は百人位おり、もう駄目だ死ぬと思つたその時、日本軍の飛行機が斉南の飛行隊から一機飛んで来るのが山の向こうに見えた。飛行機は五十キロ爆弾を敵の所に落とすとしてくれたので、敵は全滅して逃げ去りました。そのまま飛行機は帰りました。

夜、戦闘はありませんが、見当を付け迫撃砲を撃つて来ますので気持ちが悪かつた。しかし日本の飛行機がくる様になつてから敵は来なくなつた。

この戦争で多くの人が命を落としました。私はどこも怪我をしなかつた。本当に九死に一生だった。こんな人生もある。こんな戦争体験は他に二回あつた。

平成十六年八月二十七日 元陸軍 軍曹 加藤 光紀

『望洋荘秋祭り』開催のお知らせ

第一回 望洋荘秋祭り

一日々、いわき七浜の潮騒が聞こえる「ふるさに」に憩う一少人数で構成された、まとまりのある家族的な生活空間で、安心と寛ぎとゆとりのある居住の場を提供しています。

テーマ ～入居者と家族と地域との交流～

日時 平成16年10月3日(日)
午後3時30分～午後5時30分
場所 望洋荘正面玄関前広場
※雨天時は望洋荘内にて実施

内容 プログラム
1. 花火 5. 余興
2. 開会宣言 6. 花火
3. 理事長挨拶 7. 閉会宣言
4. 来賓者祝辞・挨拶

◎バザーコーナー

◎模擬店コーナー

焼きそば 綿あめ
豚汁 ポップコーン
フランクフルト ヨーヨー釣り
ジュース 輪投げ
ビール

お断り

- ・駐車スペースに限りがございます。乗り合わせにて、ご来荘頂けます様お願い致します。
- ・模擬店コーナーの商品には、限りがございます。品切れの際はご容赦ください。
- ・食中毒防止の為、食べ物のお持ち帰りはご遠慮ください。

主催

介護老人福祉施設 望洋荘

後援・協賛

医療法人あさうら会 須田医院
株式会社 富士産業 株式会社 常磐寝具

物療サービスを開始致しました。

八月より理学療法サービスを開始致しました。毎週火曜日と土曜日の週二回、午後二時三十分～午後五時三十分の三時間各ユニット希望者の方を対象に順番で実施しております。入居者様の腰・膝の痛みが少しでも軽減出来る様にと考えております。



SSP治療機(低周波治療機)

低周波により、筋肉に刺激を与え、筋肉のこわばりをやわらげます。

ホットパック(温湿性パック)

患部を温め筋肉の緊張をほぐし、筋肉をやわらげます。

これらの機械により、マッサージ効果が向上します。

理事長の著作集より その⑩

「二七医者からの出発」を讀んで

「二七モノとホンモノとの狭間にて」

須田 滉

福島県立医科大学を卒業の後、東京医科歯科大学付属病院でインターン生として研修させて頂いた。そのときのこと、つい数年前のことの様に鮮明に思い起こされる。残念にも物故会員になってしまったNE君と二人、田舎弁丸出しの日々であった。特に小生の訛は他の追隨を許さぬものがあつたようだ。東京のご真ん中、田舎の大学と比して、研究室、病院等のスケールの違いに戦きながらも楽しい生活であった。僅か一年という短い間だったが、これも周りの皆が、旧知の如く対応してくださつた賜と今もって感謝。その後、医師国家試験を経て医師となり、既に三十年が過ぎなんとして居るが、無我夢中のひとことに尽きる。

つい最近、徳永進氏著の「二七医者からの出発」ドクターSuの妄想―を讀み、甚く感じられた。(この著者は日本アップジョン(株)の雑誌「SCOPE」に「鳥取の現場から」という随筆を連載中であり、蛇足ながら、以前、我々がもつと若かつた頃、見川鯛三氏が「医者」とあるものが・・・という題で、面白い内容のものを長期にわたり掲載していた雑誌であります。ご記憶のことと思ひますがこの著書の中に「二七医者に学ぶべきもの」のタイトルで、患者に極めて慕われる資格のない二七医者の話が載つて居る。朝の回診が早く、診療も決して威張らず怒らない。かつ、説明が平易で、やさしい、親切、加えて、患者の様子がおかしくなつたりする時は、必死に立ち向かう。しかし、無資格が発覚し、病院から姿を消してしまふというのである。ふと、自分のことを振り返つてみると、学生の時のポリクリ、またインターン時代は法律上で許された、政府公認の二七医者であつたと思ふ。だから、昼夜を問わない患者への必死な態度。知識・経験は薄いものの、病状を含めて相手理解に邁進する真摯な姿。相互の信頼関係の形成をめざす熱情。等々が溢れて居たと思ふ。

なんとか、ホンモノの医者になり2、3年もするとどうなるか、権威を保つべく少々横柄になつたり、相手の気持ちなど付度することもなく、唯々自分の世界、自己陶醉に陥る状況を呈するようだ。小生とて例外ではなかつたように思ふ。二七の時よりは、経験知識は比べるまでもなく豊富になつた。しかし、心持ちは二七ではなく、似非のようである。「ホンモノ医者」をめざして、初心のあの時の心持ちを取り戻さねばと思つて居る。本の中の「医者を持つべきヒューマニズムの核心は、この「二七医者」こそが持つて居る日常の態度なのだろう」という言葉が重く心に残つた。

そうは言うものの、「ホンモノ医者」になることは、どうしてどうして並みのことではない。皆と別れて福島に戻り、大学での研究生生活十三年、その後一年間地方の総合病院で武者修行。後、現在地いわき市に開業し、十五年余りを救えている。その間無床及び有床診療所、また、八十床の病院経営等々、バタバタの人生であり、内観するゆとりなどなかつた。特に田舎者には、医療行政の送る波の高さは、並のものとは思えない。奥尻島の津波もかくやと思えるほどである。ザンブリと波を被り、今年には病院経営を

止めることにした。往く当てとなく、二つの診療所だけ残り、自分の守備範囲の患者への対応に明け暮れている。こんな時であるからだろうか、脳裏に「赤髭医者」とか「ホンモノ医者」の言葉が浮かんでくる。「ホンモノ医者」は無論のこと、「ホンモノ人生」は何なのか、考える時節なのかもしれない。自分のところがこの本を求めたのだろうか。久方ぶりに皆さんにお会いし、是非とも、ご教授を請ひ願ひたいものと思ひ急ぐ思いでおります。

東京医科歯科大学医学部十三回生 卒業後三十周年記念誌に平成七年掲載

『第八十八回いわき寄席』のご案内

吉原 朝馬師匠

独演会



名 佐藤 武
 生年月日 1949年 5月 18日
 出身地 千葉県多古町
 芸 歴
 昭和四十三年五月 十代金原亭馬生に入門
 昭和四十四年一月 前座となる 前座名「駒八」
 昭和四十八年四月 二ツ目昇進
 昭和五十七年十二月 眞打昇進四代目「吉原朝馬」を襲名
 受賞
 昭和五十七年 国立劇場新人賞金賞
 趣味
 野球(少年野球コーチ)
 少年野球のコーチを6年程しています。現在は四年生担当で土日祭日に年間十数試合と練習に汗を流して居ります。

日 時 平成16年9月13日(月)
 開演時間 午後6時30分
 場 所 いわき市文化センター大ホール
 主 催 須田医院

今日の言葉その⑨ (倫理研究所編標語集から)

喜びは

分けるほど深くなる

美味しい料理は二人で食べた方が断然うまいのである。それは分かちあう喜びがあるからだ。なるほど分け前は少なくなる、だけど、幸福感が断じて違ふのである。



社会福祉法人 弘人そく福祉会

介護老人福祉施設 『望洋荘』
職員紹介⑩&「コメント」集



介護士 香高 周紀

入社して約9ヶ月経ちました。何も分からない事で不安でしたが、今、毎日が日々勉強で頑張っています。利用者さんの立場になって考え、利用者さんの多くの笑顔が見られる様に、これからも頑張っていきたいと思っています。



介護士 前原 美恵子

望洋荘に入社して、吉田施設長より、話して頂いた言葉の中で「やってあげるのではなく、させていただくのです。それを忘れないで下さい。」という言葉が一番印象に残りました。経験の少ない私ですが、利用者様の「ありがとう」に支えられて、これからも一日一日笑顔を忘れず努力して行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



介護士 鈴木 祥子

私が、望洋荘に入社してから9ヶ月が経ちました。利用者の方々が家庭的な環境の中で生活が送れる様な施設を目指すという事で、それに魅かれて入社しました。

人生の大先輩である利用者の方々と会話をしたり、色々な経験や知識を教えて頂いたりしながら、介護士として少しでも快適な生活が送れる様頑張っていきたいと思っています。

不在者投票の光景

九月二日(木)午前九時より塩屋岬広場(望洋荘内ホール)にて、福島県知事・いわき市議会議員一般選挙の不在者投票を実施いたしました。利用者の方々が真剣な顔で、投票されておりました。



介護保険一口メモ ⑩

介護専用型有料老人ホーム

主に寝たきりなどによって常時介護を必要とする者を入居させる有料老人ホームのことです。介護居室の定員の割合が、一般居室を含めた施設全体の定員の半数以上を占めるものをいいます。一般の有料老人ホームの設

備のほか、介護居室、機能回復訓練室などを設置することや、機能回復訓練担当者、介護を処遇する職員(生活指導員やヘルパー、看護師、准看護師など)を入居者三名につき一名以上配置することなどの指針が定められています。

宅老所

小規模で地域的なデイサービスなどを行う、ユニークな老人施設です。市町村や民間団体など多様な経営形態で営まれており、サービスも入所できるところもあれば、デイサービスだけの所もあったりとさまざまです。介護保険法においては、一定の条件を満たせば指定事業者になることもできます。

民生委員・児童委員

地域に在住しながら、福祉全般の相談に気軽に応じるボランティア。地域住民の生活状態を常に把握して、関係機関と密に連絡を取り合う。推薦により三年の任期で、厚生大臣が委嘱する。

編集後記

『望洋荘』便り
平成十六年九月一日発行
発行所 いわき市

平豊間字合磯二十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373

FAX (0246) 55-7255